

児童を深い学びへと導く算数指導

：統合的・発展的な考え方を働かせることによる思考や態度の変容を目指して

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（算数）

氏 名（木下 匠）

本研究は、児童の深い学びの実現に向けて構想した3つの手立てを含む学習過程を授業で実践し、その授業の中で児童が記述した2段階のまとめ（中間まとめと最終まとめ）を分析することで、その手立ての有効性や児童の思考・態度にどのような変容が見られるのかについて検討したものである。

児童が授業の中盤で記述した中間まとめの多くは、授業の初期段階で提示された問題に限定された記述、あるいはその解法を具体的に再現しただけのような記述であったが、中間まとめ後の新たな問題の解決を踏まえた最終まとめでは、そのほとんどが、授業で扱った複数の問題の共通点に目を向けた記述や授業で学んだ問題解法の一般性の認識を示唆するような記述へと変化した。また、実践を重ねるにつれて、最終まとめにおける一般性の認識に関わる記述には、授業で扱った問題に現れない数値の使用、「…」や「など」のような記号・言葉の使用が頻繁に見られるようになり、実践を通して、学習内容を統合・発展・一般化するための具体的な語彙や考え方が身に付いたことも明らかとなった。